



AH13060 中川 大樹
指導教員 伊代田 岳史

1. 背景

現在，建設業界では大学卒業後，就職する人が 3 年目までに離職する割合が約 3 割という状況¹⁾が 10 年ほど続いている．また，特に土木業界では建設会社やコンサルタントに就職後，仕事を継続し技術や経験を蓄積した技術者が公務員などの発注者に転職するケースが多いとされている．

2. 目的

土木建設業で働く人を対象にアンケート調査を行った．アンケート調査結果より、建設会社に就職し発注者に転職した人，建設会社に就職し継続している人，発注者に就職し継続している人の「就職時の希望」「就職後の不満」を比較することとした．また，建設会社から公務員などの発注者側に転職する要因および「転職時の希望」の違いを考察することから土木技術者の実情を明らかにすることを目的とした．

3. 調査の概要

3.1 調査の手法

Google フォームを利用しアンケートを作成した．芝浦工業大学土木工学科に在籍する教員，他大学の土木系学科の教員に協力を依頼し，卒業生からアンケートの回答を得た．

3.2 対象者

年齢や性別など問わず，土木業界で働く人を対象とした．また，回答者の職業を表-1 に示す．そして，本研究では「国家公務員」「地方公務員（都道府県）」「地方公務員（政令指定都市、市区町村）」「インフラ系（鉄道・道路・電力・ガス・上下水道など）」を発注者とした．

3.3 回答者と回答者数

「建設会社を継続している人」，「建設会社を経験し発注者に転職した人」，「発注者として継続している人」のを回答者数表-2 に示す．

表-1 回答者の職業

職業	
国家公務員	発注者
地方公務員（都道府県）	
地方公務員（政令指定都市、市区町村）	
インフラ系（鉄道・道路・電力・ガス・上下水道など）	
ゼネコン	
建設コンサルタント	
専門コンサルタント	
メーカー・製造業	
研究機関（大学・民間の研究所）	
その他	

表-2 回答者と回答者数

回答者	回答者数
建設会社を継続している人	138
建設会社を経験し発注者に転職した人	33
発注者として継続している人	104

3.4 論文での回答者の取扱い

アンケートは転職経験のある/なしで場合分けし，さらに，転職経験のない人は継続する発注者と継続する施工者に分け計 3 つの場合に分類した．本研究では「建設会社を継続する人」「建設会社から発注者側に転職した人」「発注者を継続する人」に着目した．

4. 結果および回答比較

4.1. 建設会社で達成したいことの比較

「就職先を選ぶにあたり達成したいと思ったこと」の設問結果を図-1 に示す．建設会社に就職し転職せず継続している人と建設会社に就職し発注者に転職した人の回答割合を比較する．

「ものづくりにかかわりたい」「大きな構造物をつくりたい」の回答割合が高く，次に「建設現場の終始を見届けたい」が高い．建設会社を継続する人と発注者に転職した人の選択項目に大きな差はない．よって，継続する人と発注者に転職する人は同様の目的を持って就職していると考ええる．また，建設会社

「都市の防災と再生研究」

の仕事である構造物をつくることを連想させる「ものづくりにかかわりたい」「大きな構造物をつくりたい」の割合が高いため建設会社の仕事を理解し就職していると考える。

4.2 転職理由と建設会社の改善して欲しいこと

建設会社に就職し発注者に転職した人からは発注者への転職の際の理由、建設会社を継続している人からは会社に改善して欲しいことの回答を得た。回答結果を図-2に示す。図-2から建設会社継続者、建設会社に就職し発注者になった人の両者とも「残業・転勤」に不満がある。また、建設会社から発注者に転職した人は建設会社継続者に比べより「残業・転勤」に不満を持っているため、転職する一番の要因になっていると考えられる。一方で、建設会社継続者は「残業・転勤」以外の「給料」などにも不満を持っている。そのため、転職する人とならない人の間に不満の感じ方や不満に思うことの違いや差があると考えられる。

4.3 公務員で達成したいことの比較

発注者に就職し継続している人が就職時に達成したいと思っていたこと、建設会社から発注者へ転職した人が発注者になって達成したいことの回答結果を図-3に示す。図-3から発注者を継続している人、建設会社から発注者に転職した人は同じ項目を選択しており、同様の目的を持って就職していると考えられる。しかし、「市民の安全を守りたい」は回答結果に差があった。その理由として、図-1より建設会社に就職する時から「市民の安全を守りたい」と考えている人が少なく、転職後も達成したいと思っていないと考える。

5. まとめ

以上から、建設会社に就職する人は同様の目的を持って就職しているため、建設会社の仕事に対する理解の不足が転職原因ではなく「残業・転勤」を不満に感じており転職することが推定される。また、発注者側に就職した場合、継続者と転職者とで達成したいことに違いや差が確認できた。よって、その差や違いを持つ人たちが互いに仕事をする上でどのように作用・影響し合っているのかを明らかにすることが今後の課題だと考える。

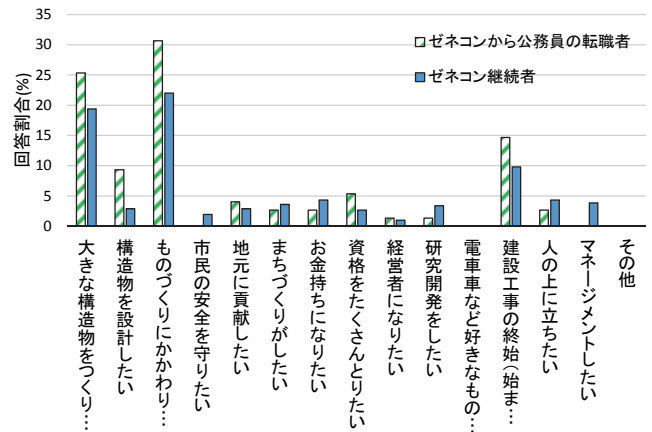


図-1 建設会社で達成したいこと

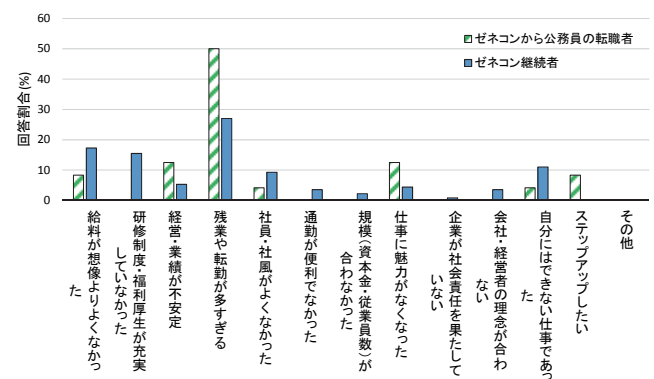


図-2 転職した理由と改善して欲しいこと

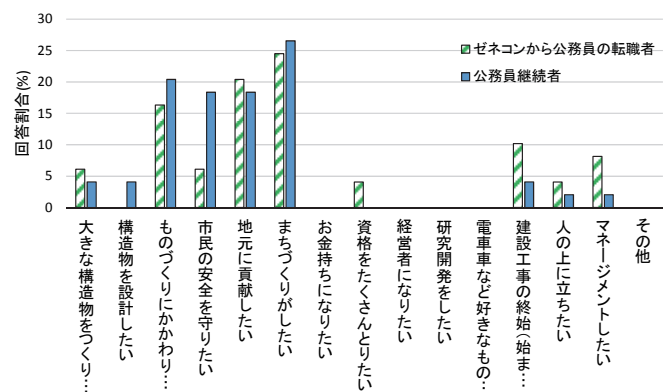


図-3 公務員で達成したいこと

参考文献

- 1) 厚生労働省 新規学卒者の離職状況
<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000137940.html>
- 2) 社会情勢とコンクリート産業構造の関連性検討委員会 報告書 2012年3月